



札幌市自立支援協議会 子ども部会ニュース No.10

第10号（2022年3月）

発行札幌市自立支援協議会子ども部会事務局

連絡先 〒004-0007

厚別区厚別町下野幌49

（社会福祉法人楡の会）

未だ終息しない新型コロナウイルスの感染の中、人と会うことが制限されたり、楽しいイベントが実施できないなど、子どもの時代に経験させたいことが縮小したり、子育てをしている保護者が孤立化したりと、困難さが常態化していることも気になります。子ども部会としてもなかなか動く事ができず気が付くと令和3年度も終えようとしています。計画していた活動などもいくつか実施できず、皆様にはご迷惑をおかけしております。この場をかりてお詫び申し上げます。（支援力向上セミナー及び社会的養護関係者研修会、集合式会議の中止、等）。ここに、「令和3年度活動報告」を中心に「子ども部会ニュース10号」を発行します。



令和3年度の子ども部会のまとめ（金澤部会長）

コロナ禍では、対面での活動や参集が難しく、令和3年度の子ども部会の活動は十分な展開ができなかったと思います。その中で、年度末3月29日には、「コロナ禍での発達支援のとりくみ」のテーマで、実践報告の研修をオンラインで開催し、また各区での子ども部会の活動を調査し、「子ども部会ニュース」で報告しました。さらに、白石区、手稲区や他の区でも地区の子ども部会主催で研修会が開催され、とても嬉しく思っています。

現在、児童の感染拡大のペースが早く、児童の感染数も多くなり懸念しています。子ども部会は、来年度感染拡大防止に協力すると共に、研修会や支援力向上セミナーの開催、地区子ども部会活動へのバックアップ、発達支援ガイドブックの内容検討、部会内体制の改善等に取り組んでいきたいと思ます。どうか、皆さんの温かな声援をお願いします。

また、今年度子ども部会は役員の改選を行い、新たなスタートを始めました。内容は、部会長：金澤俊文（社会福祉法人麦の子会）、副部会長（2名）：斉藤規和（白石区地域部会長）、北川聡子（社会福祉法人麦の子会・前部会長）、事務局長：加藤法子（社会福祉法人楡の会）です。宜しくお願いします。

各委員からの報告

社会的養護・札幌市要対協の分野から（もなみ学園 河内さん）

社会的養護関係者研修会は、今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、残念ながら、実施を見合わせました。次年度は、集合あるいはリモート形式にて、社会的養護が必要な児童がどのような場所でのどのように暮らしているのかについての研修を検討しています。研修を通して、皆さまと一緒に社会的養護が必要な児童の生活支援について理解を深めていきたいと考えています。

札幌市要保護児童対策協議会は、毎年、春に全体会が実施され、参加して、意見を提案しました。次年度も、例年通り参加し、意見を提案します。





令和3年度の各区子ども部会の活動報告（各区こども部会代表 斎藤委員）



◎**東区** 「小さな地域づくり」をテーマに年二回の「ウェルトーク」（学びと交流の場）を作っています。今年度は、コロナ禍により一回となりましたが「コロナ禍の変化をポジティブにとらえるアイデア」と題しオンラインにて開催いたしました。約30名の参加をいただき、課題がありながらも初めてのオンライン開催の実績ができました。対面で集うことが難しい状況ですが、次年度もつながり合える機会を作ります。

◎**手稲区** 2022/1/28、2/25、3/25の3回シリーズで、虐待に関する勉強会をZoomで行いました。

1,2回目は家庭児童相談室や札幌市児童相談所から行政説明を受けつつ、事例検討にグループワークを交えて、重いテーマを自分事として考える機会を持ちました。

3回目はホームスタート事業（家庭訪問型子育て支援）について。子どもグループの今後の活動についても意見を募る予定です。

◎**厚別区** 今年度は区地域部会の部会内学習会が「児童相談所の役割と実態について」というテーマで札幌市児童相談所の方を講師にお招きするという内容のため、地域部会と子どもチームの共催という形で開催いたしました。当日は区内の事業所の方や保育園からの参加があり、児相と家児相の役割の違いや一時保護に至った事例の紹介などを伺い、支援者らの虐待対応含む児童相談所の機能について共通認識をはかる機会となりました。

◎**白石区** 昨年10月と今年1月に研修会を開催しました。10月は「性教育を考える～子どものころとからだに寄り添うために～」で性教育シリーズ第3回目です。40名参加。1月は「児童虐待を未然に防ぐために～虐待通告について考える～」で虐待防止シリーズ第3回目です。34名参加。いずれも集合研修をビデオ撮影しYouTube限定公開を行いました。今後も基本的に集合・対面で行いたいと考えています。

◎**西区** 地域部会自体がコロナ禍になってからなかなか開催できず、令和3年度に各事業所アンケート集約結果より、Zoomで事務局会議、全体会1回、交流会1回がやっと開催できました。交流会では、コロナ禍での各事業所や各機関の業務内容の変化やコロナ感染予防への対応の工夫などがグループワークで話し合われた。子ども部会としての活動やその他の専門部会活動は停止しており、次年度の事務局会議で開催につ

医療的ケア児検討委員会（加藤 事務局長）



去る令和4年2月3日にオンラインにて検討委員会を行いました。会議内容は以下の通りです。

1) **医ケア児に関連する支援・サービス一覧表**～医療・保健福祉・教育・その他についてライフステージに沿った情報をひとまとめにした図が示されました。

2) **学齢期の課題検討のための調査について**～これまで主に乳幼児期の課題を議論していましたが、次年度は学齢期の課題抽出を行うこととなりました。今後は教育・福祉サービス利用・家族支援等についてさらに踏み込んで課題を拾いあげていく予定です。

3) **「札幌市立特別支援学校学則の見直し」について**～豊成・北翔養護学校において、令和4年4月1日付で保護者付き添い軽減の観点から「常時付き添い」について「常時」の文言を削除するということです。

4) **札幌市立小中学校・放課後児童クラブにおける看護師配置について**～看護師配置されている学校や児童クラブが少しずつ増えており、就学先の選択肢が広がりをみせています。その他、サポート医師の派遣や福祉サービス事業所の看護師配置に関わる助成金など、札幌市の取り組みも広がりつつあります。



子ども子育て会議の報告（北川副会長）



今年度は、3回の会議が書面、オンラインで開催された。

主な内容は、保育計画の見直し、評価、ワーキングの報告、第4次札幌市未来プランの状況報告、子どもの貧困対策計画の改定、ヤングケアラーの調査等報告、審議され、特に障害児に関わる部分の意見を出しをしました。

また、児童福祉部会は、8回おこなわれ、令和3年の死亡事案にかかわること、中高生の生活実態調査、ヤングケアラーの調査報告がなされました。

また、札幌市庁内連携に関わる評価ワーキングの報告をうけ、庁内連携とともに、民間との連携の必要性も意見をいたしました。



事務局からのご報告



「令和3年度 子ども部会 活動実績」（事務局：楡の会 加藤）

☆定例会を2回開催（12月・3月）書面会議にて開催し、部会の活動方針の検討、課題抽出、整理を行う。

☆全体研修会開催オンライン開催 令和4年3月29日より配信

→ テーマ「コロナ禍での発達支援の取り組み ～ 不安を持つ子どもと保護者への支援の実際」

《研修会内容》

配信日： 令和4（2022）年 3月29日～4月5日（この期間に配信する研修です。）

※3月29日は16:00～17:00の間に公開を開始する予定です

内 容： 現在のコロナ禍で、私達は不安をもち続け、生活では否応なしに変化を求められています。このような状況を理解し、発達支援を必要とする子どもや保護者への具体的な支援について乳幼児期から児童期のお子さんを支援する事業所や機関（通園・学校・入所施設・重度医ケア児施設）からお話し頂き、参加者の皆さまと一緒に考えていく機会になればと思います。

対 象： 児童期の発達支援に関わる関係者及び家族等

定 員： YouTube参加（制限無し）

参加費： 無料

☆札幌市医療的ケア児支援検討会」事務局を障がい福祉課と協同担当

☆札幌市子ども・子育て会議に参加し、意見提案

☆札幌市要保護児導対策連絡協議会会議に参加し、意見提案

